

審査結果報告書

平成 29 年 9 月 5 日

主 査 氏 名

佐藤 之俊



副 査 氏 名

恩田 貴志



副 査 氏 名

岩村 正嗣



副 査 氏 名

村雲 芳樹



1. 申請者氏名 : 三重野浩朗

2. 論文テーマ : Conversion Surgery after Combination Chemotherapy of Docetaxel, Cisplatin and S-1 (DCS) for Far Advanced Gastric Cancer.
(切除不能進行胃癌に対する DCS 療法後のコンバージョン手術)

3. 論文審査結果 :

全世界中において、胃癌罹患数は癌腫の第5位を占めており、癌関連死の第3位と主要原因の一つである。とくに切除不能胃癌は予後不良であり、このような胃癌に対する標準治療としてシスプラチン+S-1(CS療法)が行われているが、その効果は満足できるものではない。しかし近年、CS療法にドセタキセルを加えたDCS療法が有望視されている。

本研究では、切除不能高度進行胃癌に対しDCS療法後のコンバージョン手術を行った症例を対象に、治療戦略の有効性と安全性を検討した。31例を対象とした治療効果、安全性、予後の検討から、DCS療法のGrade 3以上の主たる有害事象は比較的高率であるが、非血液学的有害事象は比較的低率であること、臨床的奏効率割合は88.9%であったことが示された。さらに、R0切除を施行したのは23例で、病理学的奏功は67.7%に認められ、無増悪生存期間中央値は42.1か月、全生存期間中央値は56.1か月であった。以上から、切除不能高度進行胃癌に対してDCS療法の後にコンバージョン手術を行う治療は、安全かつ効果的であるという有意義な研究であった。

本研究に関する質疑応答では、本治療法の効果、レジメ内容、奏効予測としてのバイオマーカー、今後の展望等に関する質問がなされ、申請者はこれらに適切に回答した。以上より、本研究は論文博士の学位論文に相応しいものであると考えられ、博士号を授与するに十分値すると判定された。